

1. 第38回大会報告

森田 孝夫 (奈良県立医科大学医学教育開発センター)

第38回日本医学教育学会大会は、奈良県立医科大学長吉田 修大会長の主宰により、「いま、医学教育に求められているもの」を基調テーマとして平成18年7月29日、30日の両日、奈良県新公会堂で開催された。2日間の大会参加登録者は828名(内 学生84名)、大会参加者総数は964名であった。

基調テーマに基づいて、①Population-based Medicineの教育一人から集団へ、②新臨床研修制度によって生じた諸問題とその対応、③医学教育の基盤となる考え方と実践の3つのサブテーマが決定し、さらに新たな試みとして、①教育学の専門家の参加を仰ぐ、②学生の積極的な参加を促す、③モデル授業を行う、④各大学の特色あるカリキュラムを紹介するなどが企画に盛り込まれた。

大会長講演：「いま、医学教育に望まれているもの」、名誉会長講演：「日本の医学教育に望むこと」、教育講演：「成人教育学の基本原則と提起－職業人教育への示唆」(京都大学 渡邊洋子氏)、特別講演1：「Integrating Population Health and Clinical Care in Medical Education」(John's Hopkins 大学 Lawrence 教授)、特別講演2：「Innovation in Medical Education in Korea」(韓国医学教育学会長 Meng 氏)、シンポジウム(4企画)、ワークショップ(1企画)、ランチョンセミナー(2企画)、モデル授業(3授業)、学生のセッション(8グループ)、特色ある大学教育への挑戦(31プログラム)、一般演題246題(口演123題、展示123題)。

以上の企画が大会で実施された。

2. 第39回大会報告

堀内 三郎 (岩手医科大学医学部生化学)

第39回大会は、岩手医科大学学長佐藤俊一大会長の主宰により、「地域医療と医学・医療教育－Think globally, Act locally－」を基調テーマとして、2007年7月27、28日の両日、ホテルメトロポリタン盛岡で開催された。この大会への参加登録者は770名であった。

大会プログラムは、会員からの企画アイデア募集を基盤にして、卒前教育、初期臨床研修、専門研修、生涯教育にわたる切れ目ない医学教育の在り方を取り上げた。「地域医療と医学・医療教育」

の観点からは、日野原名誉会長の特別講演「地域医療へのボランティア参加の戦略と行動」とオーストラリア Flinders 大学の Dr. Prideaux による“Community-Based Medical Education：A New Model for Clinical Education”が組まれた。

関連のシンポジウムとしては、地域医療と卒前教育・臨床研修・医師の生涯教育が行われた。この大会では、齋藤会長のアドバイスで「地域医療教育に関する盛岡アピール」(医学教育, 38巻5号358頁)を発信することができた。医学教育の

問題点という観点からは、高久先生の「我が国の医学教育の現状と問題点」とアメリカの Tulane 大学の Dr. Vigh の “Medical Education in the Past Decade : From Lecture To OSCE” と Dr. Anderson の “Status of OSCE in the US : How to Do It” の 2 題が、韓国からの招請講演として Seoul National University の Dr. Lee が “OSCE for Medical Licensing Examination in Korea” が行われ、大きなインパクトを与えた。

シンポジウムは「新渡戸稲造の武士道から学ぶプロフェッショナルリズム」、「教育業績評価を考える」、「日本の医学系大学院はこれでいいか」が開かれ活発な討論がなされた。盛岡での開催のため「新渡戸稲造の心」と題する大会長の講演が行われ、稲造の心は「人類に対する博愛の精神」であると結ばれた。本大会が日本の医療やグローバルな医学教育の重要性を再認識する契機となれば主催者として大きな喜びである。

3. 第 40 回大会報告

大滝 純司（東京医科大学医学教育学講座）

第 40 回は、東京医科大学（大会長：伊東洋、実行委員長：松岡健）の主管により、平成 20 年 7 月 25 日・26 日の両日、東京の共立講堂・学術総合センター・学生会館・如水会館の 4 会場において開催された。この大会では、「医学教育の課題と展望～40 年の潮流を踏まえて～」を基調テーマとして、日本の医学教育の過去と現在の流れを捉え、今後の方向性を明らかにすることを目指した。主な企画を以下に示す。

大会長講演：伊東洋（大会長）「東京医科大学建学の礎に寄せて」

教育講演 5 題：堀原一先生（筑波大）「医学教育学会 40 年の歩み」、Kwan Chiu-Yin 先生（China Medical Univ.）「Forty years of PBL in medical education : a personal retrospect」、宮城征四郎先生（群星沖縄臨床研修センター）「我々は何故、臨床研修事業に参加するのか」、酒井シヅ先生（順天堂大学）「日本の医学教育の歴史と展望」、Hans Karle 先生（WFME）「WFME Global Standards Programme」

招請講演：Myung-Hyun Chung 先生（Yonsei Univ.）「Medical education in Korea : the histor-

ical background and the influence of U. S.」

市民公開講演 2 題：小柴昌俊先生（ノーベル物理学賞受賞者）「やればできる」、日野原重明先生（名誉会長）「健やかに生きるための生き方の選択」

これらのほか、シンポジウム 10 題、プレカンファレンスワークショップ 1 題、ワークショップ 5 題、一般口演 166 題、ポスター発表 121 題、会員懇親会、ピアノコンサート、役員懇親会などの企画が行われた。シンポジウムの 1 題はインターナショナルシンポジウムとして、ポスター発表の 1 セッションはインターナショナルセッションとして、英語で行われた。後者では審査が行われ、尾原春雄先生（沖縄県立中部病院）と武田裕子先生（三重大学大学院）が奨励賞を受賞した。2 日間の参加人数は 955 名であった。

■文 献

松岡健：第 40 回日本医学教育学会総会および大会を終えて。医学教育 2008 ; 39 : 457-60.